

「港南台九条の会」

2016年07月27日

私は「港南台九条の会」に加わっている。会が結成されて10年になる。地道ではあるが、熱心な活動を続けている。毎月、第4土曜日の午前10時から、例会を開き、集まった一人ひとりが自分の人生の中から、戦争と平和について自由に話し、その後、質疑応答をしている。皆それぞれの人生を生き、その中から平和への篤い思いを語っている。それを「平和のバトン」という小冊子にまとめて、配布している。好評で、2冊を重ね、3冊目を出そうと計画している。例会後には、午後1時から1時間、港南台駅前で、チラシを配り、署名を集め、リレートークの街頭活動をしている。政党と宗教の宣伝をしないことが鉄則であるが、私は牧師として、イザヤ書2章4節の「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」という御言葉からのトークを多く語っている。剣、槍などの人を殺す武器を打ち直し、鋤、鎌の農機具に変え、農産物を沢山作って分かち合えば、戦う必要がなくなる。憲法九条は、この精神ではないかと九条の実行を訴えている。

7月の例会は、仲築間卓蔵氏を招き「参院選の結果とマスコミ報道 — いまこそ『九条の会』— 」と題して、講演をしていただいた。仲築間氏は日本テレビの「ルックルックこんにちは」のプロデューサーを長年務め、人気テレビ番組であった「11PM」の宣伝担当をしたり、テレビ業界で活躍した方である。組合運動をしていたが、「マスコミ九条の会」を大橋巨泉氏などと立ち上げ、秋山ちえ子氏、鳥越俊太郎氏も加わり、熱心に九条を守る活動をしてきた。幅広い活動をしてきたので、講演は多岐に渡った。

参院選について、自民党と公明党の政府与党は改憲勢力の3分の2を取ったが、野党共闘で、一人区において11勝21敗であった。前回参院選の2勝29敗に比べれば、健闘したと評価できる。今後の共闘が問われていると言われた。安倍首相はマスコミ関係の重要な立場の人たちを会食に招き、懐柔作戦をしている。メディアへの政治介入が目にあまり、権力に飲み込まれている状況がある。大事な法案や事件が、例えば、国旗・国歌制定、有事立法、甘利明前経再生相のあっせん利得処罰法疑惑などの時、どうでもいいニュースを大量に流し、「目くらまし」をする。これに騙されてはならない。メディアの現場においても、組織の中で自己保身が起き、権力に忖度する自己規制が働いている。

報道の自由度ランキングは12位から72位に急落している。国連特別報告者のデビッド・ケイ氏は「日本の報道の自由が脅かされている」と警告している。英国のBBCは国営放送であるが、大量破壊兵器があるとしてイラク戦争に加担したブレア首相の過ちを手厳しく批判している。そのような自立した、気骨あるメディアが期待される。

仲築間氏はマスコミのただ中におられたが、メディアが信頼できない、信頼するなど言われた。しかし、メディアが時の流れに合わせてタクトを振るならば、「流れ」を変えるオルタナティブ（もう一つの）メディアを作ろう。小さなメディアで良い。草の根の「九条の会」は全国に7,500もの「会」ができています。これらの市民運動が強力に進めば、マスコミはついてくる。今こそ「九条の会」の出番であると講演を終えられた。

私は、組織に力があることは重々知っているが、個人である市民の中に「民主主義、立憲主義、平和主義」を実現していく真の力量を構築することが最も大切なことだと思っている。改憲が国民投票になった時、「否」を表明できる。そうなれば、政権はひっくり返る。そして、世界は、平和を実践する日本国民として敬意を払ってくれるだろう。